

大沢地域まちづくり懇話会の結果

日時:令和4年7月27日(水) 18時～

場所:大沢公民館

No.	ご意見・ご質問等 発言要旨	市の回答要旨	対応結果または対応方針
1	道路補修資材としてアスファルト材が現物支給されていますが、自治会で購入し領収書で対応できませんか。また、自治会の世帯数に応じた支給内容の検討はしていただけますか。	資材は、耐久性・保水性等いくつかの条件の中でも施工できる、高品質の道路構造に見合ったものを選択しています。 1自治会上限10万円で支給していますが、自治会の規模や認定外道路の数も長さも自治会によって違いますので、支給の方法、支給額について今後検討していきたいと思えます。	—
2	団地内の除雪について協力してほしいです。	除雪については、国・県道路、市道の幹線道路を優先的に行い、完了してから地域内道路、生活道路を実施している状況です。 団地入口までは市が除雪を行っていますが、団地内については可能な限り地域内で除雪に協力願いたいと思えます。	—
3	団地内まで下野大沢線の市営バス路線を延長してほしいです。	現在の下野大沢線は、下野大沢駅から今市市街地を経由し上今市駅までの路線であり、電車の時刻に合わせたダイヤ運行をしています。運行路線を延ばすとなると、路線バスの役割、採算性、民間バスとの競合等いろいろな問題があり、難しい現状です。 市内にはバス停までの距離が一定区間あり、利用が不便な地域が点在していますが、市がすべての地域内交通を確保することは難しい状況です。既存の運行形態では対応できないため、今後の地域事情を考えながら、地域が主体となって運行できるような仕組みづくりを検討していきたいと思えます。	—

No.	ご意見・ご質問等 発言要旨	市の回答要旨	対応結果または対応方針
4	市民や自治会を巻き込んだ交流ができる大きなイベントを開催してほしいです。	<p>イベントについて、行政側がメインで開催するのは難しいです。大沢地区でまちづくり協議会を立ち上げたうえで、その中で地域が主体となり企画を立て、行政側はそれを支援することが望ましいと思います。</p> <p>コロナ禍において、市のいろいろなイベント、行事について見直しをしています。行政側がこれをやりましょうと住民の皆さんに押し付けても上手くいかないの、住民の皆さんと共に考え、話し合いながら進めていきたいと思っています。</p>	—
5	民地から道路に樹木が伸びていて通行等に支障がありますが、市の対応についてお聞かせください。	<p>道路敷地内の植樹帯に生えている樹木については、視界が良好に確保できるよう管理していきたいと思っています。また、民地からはみ出している樹木については、パトロールや情報提供で確認し、土地の所有者に対して伐採等のお願いをしているので、継続してやっていきたいと思っています。</p> <p>また、とちぎの元気な森づくり県民税の活用で、通学路の整備や里山林の管理等もあるので、対象地区が山林であれば農林課に相談願いたいと思います。</p>	—
6	管理されていない空地について、市で土地の所有者を調べてほしいです。	<p>個人情報の問題もあり、市から土地台帳等における土地所有者の情報をお伝えすることは難しい状況です。基本的には、住民同士の問題であるため、不動産登記簿等を調べるなど住民の方で対応をお願いしています。</p> <p>なお、自治会等における生活環境の確保の取組みに対する支援として、自治会とともに空き地の所有者に文書で適正管理のお願いした例もあります。</p> <p>今後は市としてどのような対応ができるか検討していきたいと思っています。</p>	—
7	市内の旧所・名所の案内看板が割れたり汚れたりしているが、点検修理はしているのでしょうか。	<p>管理は国・県・市といろいろあるが、現状を把握させていただき、できる所からやっていきたいと思っています。また、必要であれば国や県にも連絡し対応したいと思っています。</p>	—

No.	ご意見・ご質問等 発言要旨	市の回答要旨	対応結果または対応方針
8	登校拒否の問題解決について、小中学生に学力だけではなく、社会参加の大切さを教えることが必要ではないかと思います。	市も不登校の対応は大変重要なものと捉えています。昨年から若杉学級の機能強化を図り、教育支援センターとして運用を始め、教育相談部門と学習支援部門の枠組みの中で不登校対策をしています。学びを保証し継続させたうえで、ひきこもりにならない方策を重視しており、同センターの更なる業務の拡大を検討しています。また、社会参加の大切さを学ぶ教育についても進められるよう検討していきたいと思います。	—
9	避難行動要支援者名簿の開示することに同意していない名簿の取り扱いについて、緊急時に名簿を開封するのでは間に合わないので検討してほしいです。	避難行動要支援者名簿のうち、地域に開示することに同意していない方の名簿は、生命の危険のあるような災害等の緊急時に閲覧するよう、法律で定められているため、現在の方式となっています。少しでも良いやり方があれば改善していきたい思います。	—
10	広報紙の記事で人口が減っているのに世帯数が増えているが理由は何でしょうか。市の財政が厳しいので、広報紙の部数や発行回数を減らしてはどうかと考えます。	人口減少の中で世帯数が増えることについて想定されるのは、世帯分離をするケースや単身者の転入であると考えます。発行部数は減らしています。広報紙は、市の情報提供として誰でも見ることができるもので、市が市民の皆様にお伝えしたい内容が沢山入っているものです。今は、ホームページやSNSもやっているが、デジタル化に向かう過渡期と理解しています。	—
11	自治会の加入率が年々低下しているので、市として対策してほしいです。	自治会加入率は、どの自治会においても減少している状況です。このため市では転入時にリーフレットやガイドブックを渡したり、広報紙に自治会の記事を載せるなど啓発に努めていますが、そのほかに効果的な手段はありません。今後、市や自治会でできることを探り、加入率が増える取組を考えていきます。	—
12	オアシス支援事業所の利用対象者が要支援者、要介護者になりましたが、元気なお年寄りや元気な乳幼児障がい者は自治公民館に集まって活動した方が良いのではないのでしょうか。	オアシス支援事業所は、介護に至らない要支援者を中心に介護予防に軸足を移した取組に移行していきます。元気な高齢者の地域の居場所づくりや通いの場として、自治公民館の活用を模索していきたいと思います。	—

No.	ご意見・ご質問等 発言要旨	市の回答要旨	対応結果または対応方針
13	毎年8月に開催されていた杉並木マラソンは、今後の状況で休止か中止かお聞かせください。	<p>杉並木マラソン大会については、現在コロナの影響で中断しています。</p> <p>毎年8月に開催してきましたが、温暖化の影響もあり時期の検討が必要です。また、並木敷は車道として機能しておらず、維持管理が以前ほどされていないため、杉の脂分を落とさないと滑って危険との課題もあります。このことから、今後中止なのか休止なのか、現段階では検討中です。</p> <p>また、救急車の出動も以前より多くなっています。参加者が多い割には、コースの幅員も狭く限りがある等の課題も含め、どういう形態がいいのか継続して検討していきたいと思います。</p>	<p>日光杉並木マラソン大会について、令和2年度の第15回大会は新型コロナウイルス感染症の影響で中止とし、令和3年度以降の大会については「当面の間休止」としております。</p> <p>当面の間休止としている理由としては、新型コロナウイルス感染症の影響以外にも、真夏の大会のため熱中症の危険性が高いことや、コースの一部が車両通行止めとなったことから杉の落ち葉が路面に堆積し、そこから出る樹液の脂分が路面に付着し、滑りやすい状況であることなどがあげられます。</p> <p>今後は、上記の諸問題を勘案し、開催の可否を含め、関係機関等と協議してまいります。</p>
14	市道の両側から草が生え、本来の道幅が確保されず車がすれ違えない場所がありますが、市は場所の状況を認識しているのでしょうか。	<p>市内を1日3ブロックに分けて、適切に道路パトロールを行っています。また、郵便局とも提携を結び、穴や草により交通に支障がある場合は情報提供していただくことになっています。そのほか、職員の通勤時や現場に向かう際もパトロールを行っていますので、草が生えている状況は一定程度認識しています。</p> <p>民地から生えている草は、可能な限り土地の所有者にお願いしていますが、なかなか実施してもらえず市では手が出せない、行き届かない状況もあるため、地域の方や周囲の方にご協力をお願いしたいと思います。</p>	—

No.	ご意見・ご質問等 発言要旨	市の回答要旨	対応結果または対応方針
15	<p>今の子どもは、家においてゲームやスマホを通じて対話しており、子ども同士では限られた場所でしか遊べない状況です。誰でも来て遊べる公共施設があったらいいのではないのでしょうか。</p> <p>また、学童保育の利用条件は変わらないのでしょうか。</p>	<p>子どもたちの遊び場として、就学前の子どもを対象に今市市街地の商業ビルに地域子育て支援センター、日光、藤原地区には親子ふれあい広場があります。</p> <p>小学生以降は放課後児童クラブがありますが、条件があり全ての子どもが利用できるわけではありません。小学生が利用する遊び場はなかなか整備できていない状況です。</p> <p>また、体力づくりの面で部活動について説明させていただきます。部活動については、学校の教職員の負担が多いので、働き方改革の視点から国は地域移行を提唱しており、検討課題になっています。市単独でできることなく、競技団体や総合型スポーツクラブといった地域の協力を得ながら、地域移行を進めなければなりません。そういうものを通して、子どもたちの体力づくりや遊びづくりの場所を考えられると思います。</p> <p>子どもたちの遊び方は、大分変わってきています。今は、オンラインゲームのように家に居ながらゲームで繋がることができそうですが、子どもたちを外に出せるよういろいろな方と協力しながら、一層努めていきたいと思えます。</p>	—